



ぽっかぽか

2016年5月発行 No. 13
風の子第二保育園つどいの広場

◇あそびの大切さについて

子どもにとってあそびは生活そのものであると言われており、あそびは発達の土台となる大切な活動です。

あそびには3つの「間」が必要だと言われています。それは「時間」「空間」「仲間」です。

子どもたちは社会体験、自然体験を通じて情緒が一回り大きく育っていくのですが、そこに「あそび」がとても大切なはたらきをします。

その1 子どもたちは、あそびを通して人間関係の体験をします。その中で幼児期のこどもたちは「自分の思い通りにいかない人がいる」と知り、さらには一緒にやって楽しかったと思えたり、あそびを通してやり取りをしていく中で思いやりの気持ちも育っていくことになります。

その2 あそびを通じて子どもたちは、ルールを知ります。楽しくあそぶためには、ルールを守らなくてはいけないんだということを知るのです。

その3 あそびは子どもたちの創造力や観察力を育てます。ですからきれい好きの大人であればちょっと眉をひそめるような「ぐちゃぐちゃあそび」や「ぬるぬるあそび」「べたべたあそび」も子どもたちにとっては大事な経験です。

泥んこあそびなどもあそびを通して免疫力が高まり、雑菌に負けない丈夫な体になったりします。

その4 体のいろいろな機能を使ってあそぶ事で(自然に)運動能力を養うことになります。



◇発達と発達にあったおもちゃやあそびの紹介～0歳から2歳～

0歳児 音に注意を向けさせ、手の操作の力を強めさせましょう

3～6ヶ月 静止したものに視線を固定し、動くものを目で追うようになっていきます。
手に持てる物、口に入れても大丈夫な物（がらがらなど）



6～9ヶ月 腹這いの姿勢で過ごし、寝返りをうったりしながら動き回る時期。
握れて、音がしたり、ボールなど転がり動くおもちゃ(動くものに興味を向けさせ、体をうごかすようにさせる。ハイハイを十分にさせ、這う力を助長する。)

9ヶ月～1歳 はいはいやつかまり立ちから一人で座れる時期。



一人あそびを始め、片言がはじまり自己主張がはっきりしてくる。
ボールを転がして追ったりなど全身を動かし、すべり台や階段をよじ登らせる。
手先の運動も活発になるため、積み木やお手玉、引き出しを開けたりピンのふたを開けたり閉めたりを十分にさせます。

1歳児

腕、手、指の活動の分化をはかり、基礎的な生活習慣を身につけさせる。
生後2年目の大きな特徴は歩き始めること、話し始めること、物を扱う基本的な動作を習得することです。



1歳児の運動面では歩くことを中心に走る、登る、降りる、押す、引っ張る、すべる、またぐ、潜るなどの動作をおこない、腕や手や指先の運動ではつかむ、にぎる、つまむ、はずす、めくる、とおす、ころがす、だす、入れる、まわすといった活動やなぐり描きを始めます。

シールはがし、紙破り、穴通し、指人形、ぬいぐるみ、積み木、粘土などを十二分にさせましょう。

周囲の人々のことばを理解する能力と自分の欲求を単語で表現する能力を育てる為に、指人形を使って子どもに話しかけたりして物と言葉の結びつきを理解させましょう。

又、形の違いや大きさがわかるような積み木やポストボックスやはめ板を使い区別する能力を育成しましょう。

2歳児

これまでに比べ体のめざましいほどの発達はみられなくなりますが、全体的に体が強くなり、神経系が発達し運動器官の機能が向上します。
特徴としては、自分で行動しよう、自分でやりたいという意欲が強くなりますが、子どもの注意はまだ極めて不安定ですぐに気が転じ、ひとつのことを途中でやめて別の事に手を出したりします。又「なぜ?」「どうして?」の質問が多くなり、言葉の理解ができ思考がさらに発達します。



積み木、ままごとセット、ぬいぐるみや身の回りのことができるようになるボタン、ホック、ファスナーなどの練習ができるようなものであそぶのも良いでしょう。

すべての年齢に共通して言えることは、こどもにおもちゃを与える時にただ与えっぱなしにするのではなく、おとなが話しかけたりこどもとやりとりをしたり、こどもの思いに共感しながら一緒に楽しむというおとなのかかわりが大切だということです。
この時期に人と関わることの楽しさや心地良さをたっぷり経験させてあげると良いですね。